

新潟民商

新潟民主商工会
新潟市沼垂西3丁目
電話(243)0141

17年12月4日

日程

- ・12月4日 常任理事会
- ・12月5日 婦人部ランチ会
- ・12月10日 経営分析スキルアップセミナー

税務調査急増中 署員の対応に注意を

新潟民商ではお盆以降税務調査が急増し、15件の税務調査が行われています。

調査件数を増やすために調査官だけでは足りず「財務官」の職員も調査に出ているようです。その中で署員による横暴とも言える振る舞いが目立ち始めました。

事例として挙げますと、①当初26～28年の帳簿の確認から始める予定だったものを行わず、税務と関係があるか不明な調査や29年度の記帳の確認など予定外の調査により時間が足りなくなるといふ事態がおこりました。

②26～28年度の調査とのことで書類などの準備をしましたが、準備を要求されていなかった29年度の分も開示をせまられました。しかし用意をいっていなかったため29年度分の確認のため再度調査を行うとのことでした。

事例で挙げたものは一部ではありますが署員の横暴な調査が垣間見えます。

また署員は義務である納税者への事前通知をおざなりにしているという声をききます。

本来納税者に対して行われる事前通知を配偶者に通知の内容を伝えるなどは国税通則法に違反しています。

事前通知は11の項目があり1つでも欠けた場合、適正手続きを欠いた違法調査となります。

事前通知の11項目

- ① 実地調査を行う旨
- ② 実地調査を行う日時
- ③ 調査を行う場所
- ④ 調査の目的
- ⑤ 調査の対象となる税目
- ⑥ 調査の対象となる期間
- ⑦ 調査の対象となる帳簿書類その他の物件
- ⑧ 調査の相手(納税者)の氏名および住所
- ⑨ 調査担当署員の氏名及び所属
- ⑩ ②と③は変更可能であること
- ⑪ ④～⑦で通知されなかった事項についても、非違が疑われる場合には、質問調査を行うことができる

税務署から電話が来た際には11項目の内容を確認し、

メモ等を取り役員や事務局員に連絡しましょう。

県連「いのちと健康を守る交流会」国保引下げ運動を

11月26日県連共済会主催で学習交流会が開催されました。新潟民商共済会の高橋理事長の司会で始まり、内山県連共済会理事長はあいさつで「全商連共済会で、衆議院選挙で新潟県は野党共闘候補が勝利していること、共済会の運動も高い評価をうけています。来年の全商連総会に向け頑張りましょう」と述べました。

青木専務理事は活動報告で「国保料引き下げ・減免の運動や共済加入運動をさらに広げる」ことなどの方針を提起しました。記念講演は「もう癌なんか怖くない」と題して県福祉保健部の保健の中村春歌さんが講演し、健康増進についての理解を深めました。

新潟市の国保は6億円の黒字 保険料取り過ぎなのに基金に9億円積立

平成28年度の新潟市国保の状況が報告されましたが、保険料負担軽減のために一般会計から11億円を繰り入れることを予算化しましたが、実質6億円の黒字、繰入額を3億円に減らし、なお且つ基金に9億円を積み立てました。保険料の取り過ぎなのに、保険料の引き下げに使わないで溜め込む市政のありかたが問われています。来年度から、制度が変わり県の試算によると新潟市は繰り入れを行わなくても保険料引き下げができる可能性が生まれています。高すぎる保険料の引き下げの運動に取り組みしましょう。

国保引下げ署名スタート集会

○日時 12月13日(水) 午後6時

○会場 新潟市総合福祉会館 401会議室

新潟市中央区八千代1-3-1

新潟市の国保会計は黒字です。国の財政支援も増えることから平成30年度は引き下げが可能な状況となってきました。私たちの運動で引き下げを実現しましょう。

全青協総会 第42回定期総会

11月19日(日)全青協第42回定期総会が東京都千代田区の全国町村議員会館を会場に開催されました。全国から150名の青年が参加し、県青協・小林正樹会長(三条)が議長を務めました。

今期で退任する全青協・雨松真希人議長は「参加者ではなく、主催者になることで分かる事が多くある。皆さんも主催者となってほしい」と呼びかけました。

あいさつの後は総会決議案を全青協・根本遼事務局長が提案を行い、決算報告・予算案、会計監査報告と進みました。

代表発言では、県青協・長崎誠副会長が「ウエルカム企画、実態調査アンケート、ビジネススキルアップセミナー」など「新潟の3年間の取り組み」について発言しました。



今期で全国幹事を卒業する長崎誠副会長は「親会からの協力体制が出来はじめ、今年も沢山の力を借りることができました。私が青年部を卒業する頃には今よりも役員体制を増やして、次の世代への負担を減らし、楽しい青年部にするのが目標です。また、今期で全国幹事は卒業となります。青年部部长や全国幹事を引き受け、活動しているなかで改めて気が付いたことですが、役員は本当に信頼できる人しか頼めないという事を今更ながら深く感じています。前部長も同じ気持ちだったと思います。これからも、その気持ちに少しでも応えられるよう頑張っていきます。」と、これからの意気込みや感謝の気持ちを述べました。



全青協は1万1000人の組織建設を目指して活動し、到達現勢は1万929人で増勢となりました。また、新潟県青協は「前総会比1割増」を達成し表彰されました。

入会で元気に!

料飲支部

『12月1日に古町でスナックをオープンする人が開業の相談に来ているよ』と、支部役員から事務局へ連絡が入りました。さっそく会って話を聞いてみると、民商の事を知り合いの民商会員や商工新聞読者の方から聞いており『支部長のところへ相談しに行ってみたら』と言われて行ってみたら支部長とも知り合いだったので安心して相談することが出来た』とにこにこ顔で入会しました。30代の若い人の入会に支部の役員にも元気が出ています。またその後も今年立て続けにある税務調査の相談で5名が入会!支部も活気付いています。

米山支部でも共済会学習会開催!

毎月、松本副会長参加で行なわれている支部役員会のなかで、民商共済会の認識を深めるための学習が欠かせないとの提起があり、今月21日、会員の「ひやんで(落合さん)に於いて、毎年恒例の支部共済会学習会が開催されました。松本副会長(松本防災)が、Q&A方式で、民商共済の制度及び魅力を解説し、その後の質疑応答で疑問点を確認し合い、共済加入の必要性・重要性を再確認していました。引き続き懇親会が行われ、それぞれの近況について紹介されていて、そんななかで、岡崎さん(ハウスクリーニング業)は、「気軽に立ち寄れるスペースを民商会館の内に設けてもらえれば、特段に用がなくとも訪れ易い。会員同士の交流も図られ、発展的な発想も期待できるのでは。」と新鮮な意見が出されると、「ひとりではみんな為に、みんなはひとりの為にが民商。会員同士が集まる事が基本だよね。」と、そのような貴重な意見を本部に挙げていく姿勢を示していました。また、水落支部長、山口副支部長(理容ブランチ)も、地域業者に民商アピールしてこようと、増勢拡大に意識を一つにしていました。

